

## 京都市中央市場 新青果棟整備基本設計及び新水産棟見学エリアについて

日本初の中央卸売市場として昭和2年に開設した京都市中央市場は、これまで95年もの永きにわたって、市民の食生活や世界に誇る「京の食文化」を支えてまいりました。

しかしながら、主要建築物が築後30年以上を経過し、施設の老朽化が進む中、物流の高度化や更なる安全・安心の確保など、今日求められる社会的なニーズに十分に 대응されていない状況にあります。

このため、京都市中央市場が、将来にわたって、生産者に選ばれ続け、市民に安全・安心な生鮮食料品等を安定的に提供するとともに、国内外の人々に「京の食文化」の魅力を広く発信できるよう、平成27年3月に「京都市中央市場施設整備基本計画」を策定し、これまで再整備に向けた取組を進めてまいりました。

この度、新青果棟整備基本設計及び新水産棟見学エリアの展示内容等について取りまとめましたので、その概要を御報告します。

## 1 新青果棟整備基本設計の概要（別紙1参照）

## (1) 施設概要

新青果棟は、現青果3・4号棟等の場所に建物を重層化して整備することで、各機能の集約化と市場敷地のコンパクト化を図る。

構 造	鉄骨造
建 築 面 積	約28,200㎡
延べ床面積	約83,800㎡
建 物 高 さ	約25.5m（地上5階建て）

## &lt;主な機能面積&gt;

	現 状	基本設計
卸 売 場	約14,400㎡	約13,800㎡
仲 卸 売 場	約19,400㎡	約16,700㎡
入 出 荷 バ ー ス	—	約7,600㎡
貨物・一般車両用スロープ	—	約16,400㎡
プ ロ ム ナ ー ド	—	約1,300㎡
見 学 エ リ ア	—	約100㎡

## (2) 主な特徴

### ア 品質管理の向上

- (ア) 外壁で覆われた閉鎖型施設とすることで、外気や小動物等の食品の安全に係るリスク要因を可能な限り排除する。
- (イ) 閉鎖型施設内の温度管理を徹底し、入荷から出荷に至るまでのコールドチェーンを確立する。

### イ 物流の効率化

- (ア) 市場全体の作業の円滑化と安全性を高めるため、青果部と水産物部の物流動線を明確に分離するとともに、場内通路の原則一方通行化を行う。
- (イ) 入出荷バースは、卸売場との段差を設けずフォークリフトなどの往来を可能とし、物流効率の向上を図る。
- (ウ) 事業環境の変化や自動化設備の導入等による将来的な改修の必要性にも柔軟に対応できるよう、汎用性・可変性の高い施設とする。

### ウ 市場機能や食文化の発信

- (ア) 買出人や来場者を迎え入れるエントランスホールは、内装材に市内産木材を使用した温かみのある空間とする。
- (イ) 市民や観光客、修学旅行生等が安全に市場を見学できる「見学エリア」や、楽しく回遊できる「プロムナード」を設置する。
- (ウ) 新水産棟見学エリアや「京の食文化ミュージアムあじわい館」とも連携し、「和食」や「京の食文化」を支える京都市中央市場の役割や機能等を広く知っていただくことができる施設とする。

### エ 災害時の対応

- (ア) 現在整備中の新水産棟は、災害発生時においても市場機能を維持するため、非常用発電や太陽光発電設備、水道の代替となる地下水処理設備を有している。新青果棟においても同様に、非常用発電や太陽光発電設備を設置することで、停電時に備えるとともに、新水産棟の地下水処理設備を相互に有効活用し、断水時における業務の継続を確保する。
- (イ) また、震度6～7程度の地震に対しても、倒壊、または崩壊する危険性が低いと認められる耐震性能の1.25倍の基準を確保するなど、市場のレジリエンスを強化する。

### オ 環境への配慮

- (ア) 太陽光発電やBEMS、LEDライト、高効率機器の採用等により、環境負荷を最大限低減し、市場の省エネルギー・省コスト化を進める。

## (3) 概算工事費

約300億円

## (4) 基本設計受託者

株式会社 安井建築設計事務所

## (5) 今後の予定

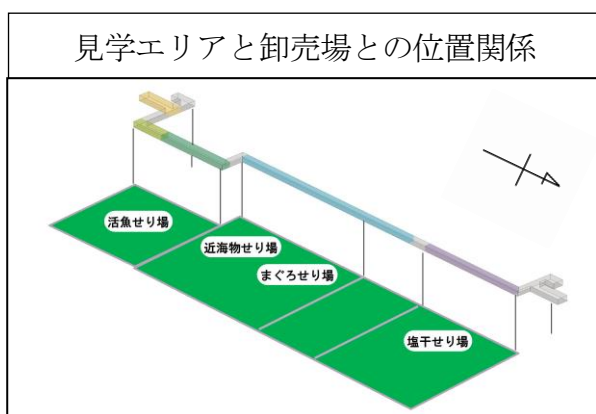
令和 4年度	実施設計完了
令和 5年度	整備工事着手
令和 7年度	第一期工事完了
令和10年度	第二期工事完了

## 2 新水産棟見学エリアの概要（別紙2参照）

### (1) 施設概要

全長約260mの通路を卸売場に沿って新水産棟西側2階に設け、市場の営業・物流動線とは完全に分離し、見学者の安全と食の衛生管理基準を確保する。

また、東側に大きく視界の広がる窓を設置するとともに、活気に溢れた現場の音声をスピーカーから流すことで、臨場感あるせり場の様子を体感できる。



### (2) 展示内容

3つのねらいに基づき、6つの主要テーマとコンテンツから構成し、展示全体を通して、食材や産地、食品ロスの削減やリサイクルに関連する取組などに理解を深めていただき、ユネスコ無形文化遺産に登録された「和食」に代表される食文化の振興やSDGsの実現などに寄与していく。また、見学エリアと近隣施設等との連携により、「京都駅西部エリア」をはじめとする地域の活性化に貢献する。

#### ア ねらい

- (ア) 京都市中央市場の役割や機能、重要性を知ることにより、市場流通食材の消費拡大につなげる。
- (イ) 「京の食文化」の奥深さや素晴らしさに触れることにより、その更なる継承・発展につなげる。
- (ウ) 産地や食材の大切さを学ぶことにより、食育の振興や食品ロスの削減につなげる。

## イ 主要テーマとコンテンツ

### (ア) 「ガイドンスシアター」

大画面スクリーンを設置し、迫力ある映像と音声により、時代を超えて食文化を支える京都市中央市場のイメージをダイジェストで表現することで、見学への期待感を高める。

### (イ) 「時を超えて受け継ぐ役割」

日本で最初の公設卸売市場として95年もの年月を刻んできた京都市中央市場の歩みを紹介し、公共インフラとして果たしている重要な役割や機能を理解していただく。

### (ウ) 「産地と消費者をつなぐ市場の流通」

市場流通の仕組みや新水産棟の機能を解説し、京都市中央市場が生産者や消費者の生活を支え、食の安定供給に欠かせない拠点であることを理解いただく。

### (エ) 「水産物と駆け抜けるプロの1日」

活気に溢れたせりの現場と共に市場で働くプロの仕事ぶりを紹介し、エッセンシャルワーカーである場内事業者の苦労や重要性を感じていただく（ビニールカーテンで仕切り、冷風を供給することで、せり場にいるような疑似体験ができるエリア等を設置）。

### (オ) 「進化を続ける京の食文化」

京都の地理や気象条件、文化的背景などから「京の食文化」が形作られてきた歴史を紹介するとともに、国や本市の食文化振興策、文化庁の京都移転の意義などを解説する。

### (カ) 「情報発信！わくわく体験ゾーン」

モトトラに乗って市場内を巡る様子を映像と音響で体験できる「モトライドツアー」や、ユニークな背景でおもしろい写真が撮影できる「おもしろフォトスポット」などで、見学エリアの最後を締め括る。

### (キ) その他

せりを行っていない時間帯でも活気を体感できるよう、せり場の様子がリアルに伝わる「体験スコープ」を3箇所を設置する。

また、京都府とも連携し、物販・商談スペースの設置について検討を進めている。

(3) 展示整備費（予定） 149,000千円（税込）

### (4) 展示整備業務受託者

株式会社 丹青社 関西支店

### (5) 今後の予定

令和4年度 新水産棟第二期エリア（塩干部門）工事完了

令和5年度 新水産棟見学エリア供用開始